

# 仏教者による気候変動に関する声明

## 地球仏教気候変動同盟

Global Buddhist Climate Change Collective (GBCC)

今日、私たちは、大いなる危機の時代を生きています。今までに人類が直面した最も重大な課題、つまり私たちの業（カルマ）が生態系に及ぼす影響と直面しています。科学者の間には圧倒的な見解の一致が見られます：人間の活動が全地球規模の環境の崩壊を引き起こしつつあります。特に地球温暖化は、以前予想されていたより速く進行しており、その影響は北極圏で特に顕著です。何十万年もの間、北極海はオーストラリアと同規模の海水に覆われていましたが、今、それが急速に溶けています。2014年に気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、今世紀半ばには北極圏の海水が夏の間消失するようになるだろうと予測しました。他の科学者は、十年以内にそうなる可能性があると考えています。

世界中の氷河も急激に後退しています。現行の経済政策が続けば、アジアで数十億人に水を供給する大河の水源であるチベット高原の氷河は今世紀半ばに消失する可能性が高くなっています。多くの国が既に深刻な旱魃と不作の影響を受けています。IPCC、国連、欧州連合および国際自然保護連合（IUCN）の主要な報告書は、いずれも、方向転換を図らなければ、今世紀半ばに、水や食糧など資源の供給の減少により広範囲で飢餓状態、資源紛争、大規模な移住が引き起こされる可能性があるかと警告しています。英国政府の首席科学顧問は2030年頃にそうなる可能性があるかと述べています。

地球温暖化は、地球上で人類と共存する多くの動植物種の絶滅をはじめ、他の生態学的な危機においても重大な役割を果たしています。海洋学者は、化石燃料の燃焼によって放出される炭素の半分が海によって吸収され、その酸性度を約30%増大させたと報告しています。酸性化は貝類と珊瑚礁の石灰化を混乱させ、ほとんどの海洋生物の食物連鎖の起点であるプランクトンの成長を脅かしています。

著名な生物学者と国連の報告書は、「今まで通りのビジネス」を続ければ、今世紀中に地球上の生物種の半分が絶滅に追い込まれるということで見解が一致しています。私たちは共に未曾有の規模で「不殺生戒」に背いているのです。目に見えないところで私たちの福利に貢献しているこれだけ多くの生物種が地球上から消失することが人類の生命に及ぼす生物学的な影響を誰も予想できません。

多くの科学者は人類の文明の存続が危うくなっていると結論づけています。私たちは、生物学的・社会的進化の重大な岐路に差し掛かっています。今日ほど、仏教が一切衆生のために果たすべき役割が重要となっている歴史の節目はありません。四諦は、今日の状況を診断し、適切な指針を打ち出す枠組みを提供します。なぜならば、私たちが直面している危機や災害は、究極的には人間の心に起因しており、私たちの心の根本的な変革が必要だからです。個人的な苦しみが欲望と無知に、つまり貪・瞋・癡の三毒に起因するなら、私

たちを集団として苛む苦しみも同様です。私たちの生態系の危機は、普遍的な人間の苦境の延長線上にあります。個人としても生物種としても、私たちは、他の人々とだけでなく、地球とも繋りを失った自己意識のために苦しんできました。ティク・ナット・ハーンが仰ったように「私たちは、自分と他者が別々の存在であるという幻想から目覚めるためにここにいる」のです。私たちは、目覚めて、地球が私たちの母であり、住処であることに気づかなければなりません。母なる地球と私たちを繋ぐ臍帯を切ってはならないのです。私たちは、地球の一部であり、地球が病めば、私たちも病みます。

今日の私たちの生物圏との経済的・技術的な関係は持続不可能です。これからの厳しい移行期を生き残るためには、生活様式も期待値も変えなければなりません。そのためには新しい習慣も新しい価値観も必要です。個人と社会の健全性は経済指標だけでなく、心の幸福に基づいているという仏教の教えは、どのような個人的・社会的な変革を成し遂げるべきかを判断する手がかりとなります。

個人のレベルでは、日常的な環境への配慮を高め、二酸化炭素排出量を減らすことを習慣づけなければなりません。私たちの内、工業先進国に住む者は、省エネのために家と職場を改装して断熱材を入れ、空調の温度を冬は低く、夏は高く設定し、省エネ型の電球や家電を活用し、電化製品を使っていないときは電源を止め、可能な限り低燃費の自動車を運転し、肉の消費量を減らして健康と環境にやさしい植物中心の食生活に移行しなければなりません。

これらの個人的な取り組みだけでは、将来の大惨事を回避するには不十分です。私たちは、技術と経済の両面で制度的な変革も行わなければなりません。私たちは、化石燃料を自然と調和した無害で無尽蔵にある再生可能エネルギー源に置き換えることにより、可能な限り早くエネルギー・システムを「脱炭素化」しなければなりません。石炭は、大気中に排出される炭素の最も有害で危険な排出源なので、特に石炭火力発電所の新規建設を止めなければなりません。風力、太陽エネルギー、潮力および地熱は、賢く活用すれば、生物圏を害することなく、私たちの必要とする全ての電力を賄うことができます。世界の炭素排出量の多ければ四分の一は森林減少に起因するので、特に動植物種の大半が生息している貴重な熱帯雨林の破壊を食い止めなければなりません。

私たちの経済システムの構造も大幅に変えていく必要があることも近年、明白となってきています。地球温暖化は、私たちの多くが期待するようになった消費レベルを実現するために産業界が乱費する莫大なエネルギー量と密接に関係しています。仏教の観点から言えば、正常で持続可能な経済は、足るを知るという原則に支配されるべきです。幸福の鍵は、常に増え続ける物質的な豊かさではなく、満足することにあります。もっとも消費しようとする衝動は、貪欲の現れであり、まさに苦しみの根本原因であると仏陀が指摘されたことです。

利益を重視し、常に成長し続けなければ崩壊するような経済の仕組みに代わり、全ての人々に満足な生活水準を提供し、未来の世代を含め生きとし生けるものを支え育む生物圏との調和を保ちながら私たちの（精神的なものを含む）あらゆる潜在能力を開発（かいほつ）することを可能にする経済の仕組みへと共に移行する必要があります。政治指導者が世界的危機の緊急性を認めず、人類の長期的な福利を化石燃料会社の短期的な利益より優先しようとしなければならぬ、持続した市民運動によって挑戦を投げかけなければなりません。

最近、米国航空宇宙局（NASA）のジェームス・ハンセン博士など気候学者たちは、地球温暖化が壊滅的な「転換点」に達するのを防ぐのに必要な厳密な目標値を定めました。人類の文明を持続させるためには大気中の二酸化炭素濃度を 350 ppm 以下の安全なレベルに留めなければなりません。この目標値は、ダライ・ラマをはじめとするノーベル賞受賞者や権威ある科学者も支持しています。現状は憂慮に値します。すでに 400 ppm に達し、毎年 2 ppm ずつ上昇しているからです。二酸化炭素の排出量を削減するだけでなく、すでに大気中に放出された大量の炭酸ガスを取り除く必要があります。

この仏教の理念に基づく声明文の署名者として、私たちは気候変動が緊急の課題であることを認め、ダライ・ラマとともに 350 ppm という目標に賛同します。私たちは、仏教の教えに従い、上記の個人的・社会的対応策を含め、この目標の達成のためにできる限りのことを行う個人的、集団的責任を引き受けます。

差し迫る大惨事から人類を守り、地球上の多様で美しい生物の生存を助けるために行動できる時間は僅かにしか残っていません。未来の世代や、生物圏を私たちと共有する他の生物たちは、私たちに慈悲と智慧に基づくリーダーシップを求めたくても、声を上げることができません。私たちは、その沈黙に耳を傾けなければなりません。その代わりに声を上げ、行動しなければなりません。

地球仏教気候変動同盟 Global Buddhist Climate Change Collective (GBCC):

Buddhist Climate Action Network (BCAN) 米国

Buddhistdoor International 香港

Dharmagiri 南アフリカ

Ecobuddhism 英国

International Network of Engaged Buddhists (INEB) タイ

Inter-Religious Climate & Ecology (ICE) Network タイ

One Earth Sangha 米国・英国

OurVoices 香港・フィリピン

起草：デビッド・ロイ、ボーディ比丘、ジョン・スタンリー

[初版：2009年、改訂：2015年]